常磐毎日新聞

八月十五日夕刊

発行所　常磐毎日新聞社
印刷所　常磐毎日新聞社印刷部
日曜祭日の翌日休刊
定價　一部金五錢　一月金四拾錢
電話　六三〇番

全國一の折紙を附された濱通りの葉煙草

▽……豫想以上の好成績

平市を始め石城、双葉、相馬、の三郡に本年度から耕作を開始した煙草米國産バレー種は七月中の旱天も八月初旬からの降雨でつかり成育を回復し成績良好で着葉も伸長も理想通り量目も六十貫百八十瓩以上と目され全國一の適地と折紙を附された

蓮沼慰問使

歡迎座談會盛況

けふ無事歸還

本縣代表の慰問使蓮沼龍輔氏は既報の如く本日午後二時五十分平驛着平那線で無事歸還、驛頭の多數出迎へと挨拶を交はして直ちに歡迎茶話會場の公會堂に至つたが同會は最初百名内外の出席者を豫想し日本間で開く豫定の處出席希望者三百名を突破する

の盛況に急に會場を變更して本館に開き先づ主催者代表の開會の辭あつて一同宮城を遥拜一分間默禱の後、平市長代理伊藤助役が長途の旅程を慰く無事大任を果した勞を慰ふ言葉を述べ蓮沼氏の元氣な挨拶あつて座談に移り質問應答、萬歳を三唱して午後五時散會した尚同氏は語る

去る六月以來五十餘日上海、南京、漢口の地土將兵に親しくお會して銃後縣民の眞心を傳へ健闘を謝し、更に九江鎮安陸方面の第一戦に行き二度漢口に改めて武昌、咸寧、大冶、金午鎮方面で發測として大陸建設に粉骨してゐる福島出身兵を慰問した、實際元氣に働いてゐる、銃後縣民の張り切つた樣子をそのまゝ傳へると非常に喜んでゐた、慰問文を望んでゐるから積極的に皆で書くやうにしたいものだ、大陸建設は堂々と進捗しつゝあるが英國の支那政策はその間大きな障害となつてゐるやうだ、最後に戦歿勇士達の戦死通知遺骨その他の手續きが遅れるのは手不足のためだから慰からずと傳言されて來た

道路の改修強化

地方振興上肝要事

六號國道を頑張れ

既報、澤通縣民待望の久ノ濱勿來間十餘里の六號國道改修工事は內務省議を通過大藏省議に廻附されたに就き十四日後藤土木部長は語る

省議は五ケ年繼續四百萬圓の工事であるが大藏省をパスさせるためには今後縣官民一致しての頑張りが必要だらう、地元の平市長その他關係民は懸命に陳情を續け月一回宛上京してゐる有樣だがそれにつけても是非今年中實現させたいものだ、縣當局としても今後一生懸命大藏省に當る考へだ、縣道延長一千百里のうち僅か八里しか餘裝されてゐない本縣の實情から推して道路の改修強化は縣勢振興のため最も大切な事の一つなのだ

神職會講演

神職會郡市支部聯合主催時局講演會は二十一日午前十時から市公會堂で開かれる、講師は陸軍中將佐藤清勝氏、一般來聽歡迎する

相手を恐喝して飲み代稼ぎ常習

植田署に檢擧さる

前科二犯の毒虫男

東京市足立區千住町生れ住所不定前科二犯石川金太郎(元)は十二日夜十時頃飯村人絹工場前を通行中の魚商赤津庄次郎(五十)に文句をつけ顔面左足等に全治三週間の傷害を負はせた事發覺し四日夜植田署に檢擧され取調べ中であるが同人は常に飲酒して與太者を氣取り附近の雜貨店、酒商店、飲食店に入り浸り恐喝及脅迫を業として居たもので八月二日の夜九時頃人絹職工藤村敏雄(二五)を恐喝した場句顔面に二週間の傷害を與へた事も判明した尚取調べの進むにつれ被害も相當擴大するものと見られ人絹工場附近の商人等は何れも今度の檢擧に少なからず喜んで居る有樣である

沼の內に腐爛屍体

遭難漁夫か

今十五日午前八時頃豐間村沼之內海岸に漁夫体の腐爛死体漂着してゐるのを發見、澤通縣民待望の久ノ濱勿來間十餘里の六號國道改修工事は內務省議を通過大藏省議に廻附されたに就き十四日後藤土木部長は語る

省議は五ケ年繼續四百萬圓の工事であるが大藏省をパスさせるためには今後縣官民一致しての頑張りが必要だらう、地元の平市長その他關係民は懸命に陳情を續け月一回宛上京してゐる有樣だがそれにつけても是非今年中實現させたいものだ、縣當局としても今後一生懸命大藏省に當る考へだ、縣道延長一千百里のうち僅か八里しか餘裝されてゐない本縣の實情から推して道路の改修強化は縣勢振興のため最も大切な事の一つなのだ

掃立後の降雨で桑不足全く解消

蠶兒の發育も上乘

相當增產を見込る

地方における現在の秋蠶々況は懸念せられた桑樹の生育も掃立後の降雨で回復し桑不足の憂みを解消して大體不足なき狀態、蠶兒の發育も一般に三、四齡中で上乘の成績そろ〳〵出廻る豫定だが掃立量の增加と蠶作良好のため相當の增產が見込まれてゐる、なほ目下中小學生は夏季休業を利用して應召家族へ勤勞奉仕作業を行ふと同時に各家庭では摘葉その他の作業に手傳つて生產擴充の一翼を雄々しく擔當しつゝあり感謝されてゐる

軌道を徹去

姿を消す小名濱名物

市街地の整理

既報、本町通り七百米の鋪裝工事を開始した小名濱町ではこれに伴ひ明治二十九年來の長い歷史を有する小名濱町と泉間の軌道を徹去することになつたが小名濱名物の明治時代交通文化史の好參考資料もこゝに一つ姿を消すわけである

身代り献金

平市五丁目馬目忠吾君は兵役に關係ありながら不幸病氣のため御國のため盡すことが出來ず全く殘念だと今十五日國防費並に市軍事後援會に各二十圓宛寄附した

大浦違反

酒食餐應か

既報、四倉署が活動を開始した小川江筋水利組合議員の選擧違反事件は其後引續き大浦村から多數召喚すると共に平區から富澤檢事、淺野判事等出張取調べを行つてゐるが去る五日久之濱沖合で船風のため遭難した第五幸勝丸の乘組員らしい

慰問狀に文集を添へ

小名濱町役場史員の赤誠

小名濱町役場史員一同はこの程慰問狀に小學校兒童文集「黑潮」を添へ町出身勇士に送つた

商港運務の今昔

小名濱支局通信　(一)

支局長　小野　務平

小名濱商港第二期工事速進獎勵は內務省々議から省かれて明年度豫算編入として取り扱はれぬ關係から地許小名濱町では期成同盟會とは別個の運動を起すことになつて直ちに縣計畫課外有志を並して小野町長や高木助役の一行が上京陳情する事になつた、其運動が果して効果を奏すか否かは別問題として商港問題が本町に起り其運動に着手した當時から殆と三十年の過去を辿つて如何に吾町先輩が努力其衝に當つて臨機に即應し得たかを知る事は小名濱商港歷史の上に最も意義ある事で殊に今日の盛況が何ゝなく弛緩したるかの觀を呈し居る際にたるかの一種の清涼劑となつて銷夏の一餐に供する事も興味ある事とも思ふが故に聊か古い事に屬するが詳記して血湧き肉躍る若人の爲めの顧みものとして筆を擯る事にした

▽商港は漁港が先驅△商港を語らんとするには先漁港を語らねばならぬ漁港を語るには漁會を語らねばならぬ本町が漁場として立つか商業地として立つかは玆に重點の分れ目であつて無盡の寶庫を控ゆる

沿海岸住民としては飽迄漁業で立たねばならぬと云ふ見地が當時の先覺者を以て自他共に免した野崎猪太郎氏を語らねばならぬ

（未完）

雜巾五千枚

國婦で取纏む

平國防婦人會では軍部供用雜巾五千枚を引受け各會員三枚宛縫製中だつたがこの程纏まつたので近く供出することになつた

勇士の墓

學童が參拜

四倉小學校兒童千六百名は毎週火曜日を銃後奉公日と定め町內神社佛閣の境內、墓地清掃作業を奉仕してゐるが今十五日の火曜日は新町如來寺、原田海岳寺に眠る今次事變戰死者の墓參をした

圖畫講習會

平市齋藤畫塾では十八日から廿六日迄訓盲院で夏季圖畫講習會を催す由

水難救濟會本縣役員會

會は十七日午後一時から小名濱町小學校講堂で開催、高橋縣警察部長臨席の上縣下適當なる漁港に救助艇を設置すること救助器具を完備の件其他協議する

桃入賞

平窪組合

平市果樹組合の桃の品評會はこの程開かれたが入賞者は左の如くである

△一等林保、根本重由△二等薄葉美雄、鈴木さき、根本直一、薄葉善一、薄葉竹松△三等鈴木庄作外十五名

漁船金融

濱通り視察

農林省嘱託元水産講習所講師宮崎賢一氏は漁船金融調査のため左の日程で濱通りを視察する

△二十三日小名濱水産試驗場△二十四日江名町△二十五日四倉町

植田役場落成移轉

既報、植田町では昨秋十月來工費一萬六千圓を投じ木造總二階建百五十五坪の役場廳舍新築中であつたが漸くこの程竣工したので近く移轉することになつた

傷害が發覺

江名町字北見清勝丸乘組漁夫帝國水難救濟會本縣支部救難所役員

天氣予報

今晩は北東の風曇り驟雨模樣

明日は北の風強く驟雨模樣

稅務協會

吏員表彰

既報、石城稅務協會では十二、三の兩日小名濱小學校で總會を開き木炭ガス發生裝置自動車に對する縣稅輕減案その他を決議したが終つて左記優良組合、組合員並に組合長を表彰した

▽表彰組合員　平市書記渡邊直一、同渡邊源彌、山田收入役、久保木直亮、同書記下山田重太郎、植田町書記古川竹之助、田人組合村助役村田屯、磐崎村書記籍崎恒司、同鎌倉晰理、濱渡組合村收入役佐藤清司、川前村書記猪狩隆昌、錦村六組合入遠野村六組合、夏井村五組合、豊間四組合江名町五組合、小名濱十二組合、大浦八組合四倉六組合、上下小川組合村五組合、川前一組▽表彰組合長、四倉町吉田藤三郎外卅六氏

海の喜び

(四)

第一甲種臨海便り

八月十三日(日)　晴雨—五時半起床、今日はすばらしい快晴だ。脫衣場の前でラヂオ体操をする。すつと南の方で蛤を取つてゐる人があつたので行つて見た少しばかり收獲があつた。朝食後海岸へ。もう臨海學校も殘り少なくなつたので今日の海水浴日和を何よりも嬉しく思つた。輕い体操をして海に入つた。水は大變冷たかつた、その上海草の屑が澤山あつてきたなかつた。時のたづにつれて人は增々ふえるばかり、砂濱も脫衣場も超滿員の盛況である。赤帽に赤褌の黑ん坊が何と言つて黑彩を放つてゐる。蹴鞠球をやつて愛嬌をふりまく。今朝の所では相變らず蛤取りが盛である。

身代り献金

姿を消す小名濱名物

市街地の整理

既報、本町通り七百米の鋪裝工事を開始した小名濱町ではこれに伴ひ明治二十九年來の長い歷史を有する小名濱町と泉間の軌道を徹去することになつたが小名濱名物の明治時代交通文化史の好參考資料もこゝに一つ姿を消すわけである

身代り献金

平市五丁目馬目忠吾君は兵役に關係ありながら不幸病氣のため御國のため盡すことが出來ず全く殘念だと今十五日國防費並に市軍事後援會に各二十圓宛寄附した

大浦違反

酒食餐應か

既報、四倉署が活動を開始した小川江筋水利組合議員の選擧違反事件は其後引續き大浦村から多數召喚すると共に平區から富澤檢事、淺野判事等出張取調べを行つてゐるが召喚者は落選した鈴木武平氏(六三)を始め鈴木氏の事務長根本甚吉、會計係鈴木辰藏及び鈴木己之助外三十八名に達した內容は酒食の饗應で結局前記四名は一兩日中に送局される筈である

勇士の墓

學童が參拜

四倉小學校兒童千六百名は毎週火曜日を銃後奉公日と定め町內神社佛閣の境內、墓地清掃作業を奉仕してゐるが今十五日の火曜日は新町如來寺、原田海岳寺に眠る今次事變戰死者の墓參をした

圖畫講習會

平市齋藤畫塾では十八日から廿六日迄訓盲院で夏季圖畫講習會を催す由

水難救濟會本縣役員會

會は十七日午後一時から小名濱町小學校講堂で開催、高橋縣警察部長臨席の上縣下適當なる漁港に救助艇を設置すること救助器具を完備の件其他協議する

桃入賞

平窪組合

平市果樹組合の桃の品評會はこの程開かれたが入賞者は左の如くである

△一等林保、根本重由△二等薄葉美雄、鈴木さき、根本直一、薄葉善一、薄葉竹松△三等鈴木庄作外十五名

漁船金融

濱通り視察

農林省嘱託元水産講習所講師宮崎賢一氏は漁船金融調査のため左の日程で濱通りを視察する

△二十三日小名濱水産試驗場△二十四日江名町△二十五日四倉町

植田役場落成移轉

既報、植田町では昨秋十月來工費一萬六千圓を投じ木造總二階建百五十五坪の役場廳舍新築中であつたが漸くこの程竣工したので近く移轉することになつた

傷害が發覺

江名町字北見清勝丸乘組漁夫志賀忠吉(五四)は去月末銚子沖に出漁の際同僚坂本庄吉氏(四六)を毆打全治二週間の傷害を負はせたことが發覺十四日平署に檢擧された

薄漁續く

小名濱魚市場便り

昨今の魚市場水揚げは何れも薄漁續きで今朝三重縣共進丸五、五〇〇尾の水揚げのみで價格も相當高含みの十一文から十五文と云ふ高値を示し其他雜魚も三百貫內外で平均貫三圓見當である

平市人事

◇出発

△平窪字諸荷目下埼玉縣北足立郡戸田村大字上戸田長瀬郡男氏二女芳子さん

△北目町九三鈴木良平氏三女滿子さん

△新川町三三高野芳太郎氏長男芳夫君

△鎌田町二目下大阪市港區岡部議定氏長女貞子さん

△南町六四目下樺太豊原市高橋由三郎氏四男光雄君

◇婚姻

△大野村大字上柳生字宮下一六木村元治氏(二六)上平窪字眞似井一四根本サタ子さん(二四)

◇死亡

△一町目三三新一郎氏四男關原定之さん(一八)

△新川町三三願吉氏長男遠藤一重氏(四二)

△四軒町二二賢氏二女鈴木茂子さん(四)

△鍛冶町二三トクさん夫鈴木多利吉氏(六四)

ラヂオ

今晩の部

後六、〇〇子供の時間お話「我海軍の強いわけ」海軍大佐酒井茂吉　後六、二五講演「關領印度の近情」馬淵金太郎　後七、三〇國民歌謠　後七、四〇(張家口より)演藝と唱歌と對話　後八、〇〇合唱「世界民謠集」コーロ・エコー　後八、三〇ラヂオ時局讀本　後八、四〇青年の時間「大陸の建設と青年」男爵大藏公雄　後九、〇〇物語「六閑記」矢田挿雲原作、徳川夢聲

明日の部

前六、〇〇ラヂオ體操　前六、〇五小學生の時間、事變戰歿軍人遺兒靖國神社參拜感想文、仙臺市木町通小學校六年猪狩穣太郎ほか　前九、四五幼兒の時間うたのおけいこ、センコハナビ　前一〇、二〇家庭の時間「川柳漫談「張切る銃後の女」性小林不浪人　後〇、〇五輕音樂、アコーデオンの小夢主演、バンジョー細田定雄、ギター小林行治　後三、〇〇婦人の時間朗讀「從軍報告」山口春子　後六、〇〇子供の時間オハナシ「ナツノオテガミ」オヘ倶樂部　後六、四五產業ニュース　後七、三〇國民歌謠「軍國登山の歌」　後七、四〇講演「健康と飯鮨」平沼克三　後八、〇〇寄席中繼北陽花月倶樂部より—漫才一男で御座る、二京見物、三お笑ひチーム　後九、〇五浪花節「善惡二人小僧」廣澤虎吉

崇祖、日本精神お盆提灯賣出し
一見涼風湧く優秀品
特製　新型行燈
變り型數百種御座います。
御一覽下さい。
平市二丁目
フクダヤ

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井貿店
平四　電話六〇六番

開院
齒科全般
口腔外科
齒列矯正
平郵便局ウラ通リ
平市南町四十五
鈴木齒科醫院
東京齒科醫學士　鈴木與一郎

喜多流謠曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時　平市田町六九
喜多流　謠曲　仕舞　白土會
電話一二七番

銃後の皆樣喜んで御使用になる
糸イラズ
綿布、綿糸、裂帛の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジャケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなります
男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい
平市古銀冶町一〇
定價20錢　30錢
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

第五十三回
女武者(三)

やゝあつて家臣は「武藤、申附たる品をこれへ」と後を振返つた。

伊藤武藤守は頷まつて、腰帶をかけた白木の台を持出して、家臣の前に置いた。

「武藤これは此度、そなたの忠勇にて、敵船の奪ひ、子と、そしてこの後の戰ひ出にいたせ」

家臣は、手ずから取つて自己に與へたのは、一文字則の脇差と、もう一つ、ふ飛鳥の鍔の鍔である。

「武藤はそれを頂戴」と、もう一度、武藤は、生死の境に臨みたるときは、敵船の奪ひ、子と、そしてこの後の戰ひ出にいたせ」

家臣は、手ずから取つて自己に與へたのは、一文字則の脇差と、もう一つ、ふ飛鳥の鍔の鍔である。

「武藤はそれを頂戴」

「はい」

「武藤はソッと鍔をふいて手を出へ」

「武藤ならないそれが嬉しく出へてくれた敵の身ちやう、武藤まつてよりも出為、あれにも出はぬが——」

「さすがに武藤を御覽つて、御く感を」

「もとより武藤いたして居ることでありうが心強い女の事故、夜の目も合はず、世の武行を殺し、さ為ながら武藤を殺してゐることあらう、その間こんな武藤の殺を申付けて嬉いた、武藤はあの國の御船、御船である、平家船の、伊藤船もあれたとの船は船やや、耳に明日をも、船の船は船に入れんに聞へてならぬ」

「なにか船の船がよくてあるな。

「武藤は武藤の船に出へてゐたけれど、武藤の一船ヒシ〳〵と船に聞へて、武藤の船はあるもしつとあるやうだ。

「武方への聞ふちや、これからは、なるべく船の船へこれで國つてあれるやう——若し武藤の船なるなら、武藤船先の船見をいなやう、中、なるべく船へ、これで國つてこ

牛乳の値上げ

羽仁説子

しばらく前まで、社會事業といへばほんの慈善のもの眼なる慈善事業のやうにいふ人が多かつた。しかし、いまはそんなことでごまかすわけに行かない。厚生省も出來、社會事業こそ國民の生活を守る大事業であるといふことになつたこの二重遊一つの問題を、これも新しい問題として加工の餘地は全くないと思ひます。しかし、問題は、社會事業とい